

川崎市国際交流協会会長賞

スポーツは世界を救う

東小倉小学校 6年生 山田 莉奈

2020年3月、新型コロナウイルス感染症による初めてのロックダウン。その時、私はアメリカ合衆国のカリフォルニア州に住んでいた。アメリカの感染者数は、その後、約300万人にまで膨らんだ。外出禁止になり、私の住むサンディエゴでは、屋外で遊んだら罰金約12万円という厳しい状況が続いた。街の店は閉まり、ゴーストタウンになっていった。人々は希望とバイタリティを失いつつあった。

その中で、私は目標を決めて、前向きに過ごす方法を見つけた。YouTubeの体操の動画をお手本にして、家の中で体操を始めたのである。最初は簡単な柔軟などから始め、徐々にレベルを上げていった。屋内で使える折りたたみ式の鉄棒を買い、来る日も来る日も練習を重ねた。そして、その努力が実り、逆上がりもできなかった私が、空中逆上がり、空中前回りができるようになったのである。マット運動では、三点倒立などができるようにまでなった。このとき、体操の楽しさを実感したのだった。

その後、2021年1月に一時帰国し、日本で体操教室に通った。そこでは、ロンダートや倒立前転等、次々と技を習得する喜びを感じることが、私はとても好きだった。そして、体操以外にも、スイミング、ダンスを習った。週に4回は、スポーツをした。まだまだ新型コロナウイルス感染症は終息していなかったが、運動を通して心と体が健康になるのを感じた。友人とともにスポーツに励むのも楽しかった。

それから、再び海外に行くことになった。私は、2021年7月に、ベルギーへ行くことになったのだ。ベルギーでも現地の体操やテニス、ダンス教室などに通い、運動を続けた。私が暮らしたブリュッセルはフランス語圏であったが、フランス語が話せなくても、現地の子どもたちと創作ダンスをつくりあげることができた。

ベルギーには三つの異なる地域と公用語がある。ドイツ語、フランス語、オランダ語圏である。「色んな人がいて、考えが違うのは当たり前」という共通認識があり、お互いを理解し合って生きているので、フレンドリーで親切な人が多い。そのため、文化や言葉の壁を越えて、現地の仲間とスポーツを楽しむことができた。

「オリンピックは平和の祭典」人々はみなそう言う。古代ギリシアでは、戦争中であっても、オリンピック開催中は、休戦してスポーツに親しんだという。ベルギーに住んでいるとき、ウクライナ戦争が始まった。陸続きなので、とても身近に感じた。そして、私の住むブリュッセルには、EUやNATO等の国際的な本部があったため、世界平和のためには何が必要なのかを考えた。

私は外国の文化や多様性に触れる機会に恵まれたため、国や人々が他者にもっと関心を持ち、お互いを尊重するようになれば、誤解や戦争を減らすことができるのではないかと考えるようになった。そして私は、スポーツを通して世界が平和にな

ってほしいと思った。そこで、私は今までの経験を活かし、将来、私が一番得意とする体操を活かしたいと考えるようになった。

私は、体操選手になりたい。日本の代表として、大きな舞台で活躍するのが私の夢である。そして、いろいろな人に希望や勇気を与えたい。そのためには、たくさん努力をしなければいけない。もっと上を目指さなければならない。そのため、ベルギーから日本に帰国した今も、ずっと体操を習っている。

今度、体操の大会に出ることになった。初めて大会に出るので、とても緊張している。でも、少し体操選手になる夢に近づいたような気がして、嬉しかった。オリンピックや、いろいろな大会で活躍している選手が私には輝いて見えた。私も、そんな選手になりたい。そう思った。少しずつ、少しずつ、私は夢に近づいていっている。今までの海外の経験や努力を、これからも未来に繋いでいきたい。また、「コロナのロックダウンの中で努力を積み重ねた結果、ここまで来れた。」そういう希望を私はたくさんの人々に伝えていきたい。そして、私が誰もが憧れるような、輝く日本代表の選手になることで、日本が今後も平和で、海外から尊敬される国であってほしい。

私はコロナ禍の経験から「スポーツは世界を救う」と信じている。今までの経験を活かし、異文化コミュニケーションや世界の平和に貢献することが目標である。いつかその日が来るまで、私は、少しずつ階段を登っていくだろう。